

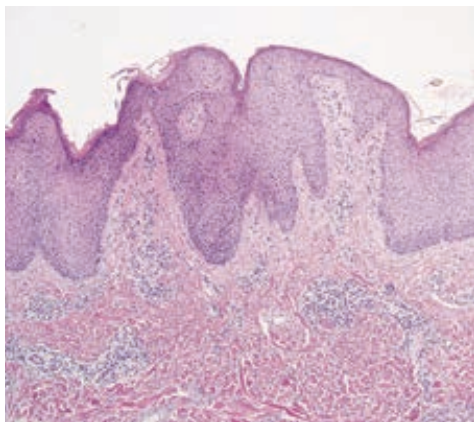


図 8.8 結節性痒疹の病理組織像

表皮肥厚ならびに真皮上層の炎症性細胞浸潤が認められる。掻破により表皮肥厚がさらに強くなっていく。

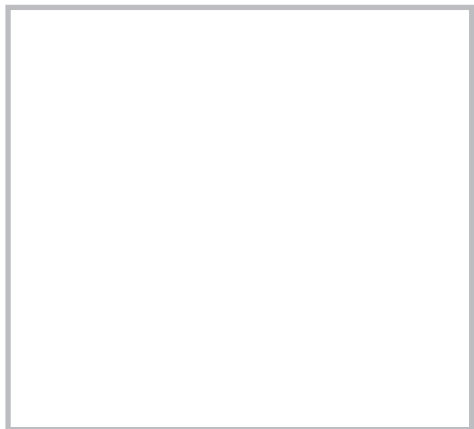
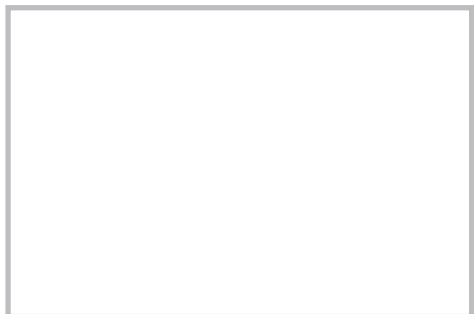
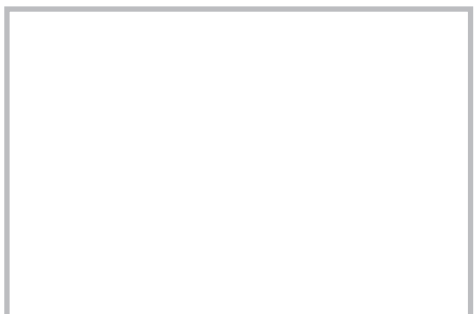


図 8.9 多形慢性痒疹 (prurigo chronica multiformis)

歳未満の幼小児にみられやすい。

治療・予後

ステロイド外用薬および抗ヒスタミン薬。二次感染に注意する。好発年齢を過ぎると症状が出なくなる。

2. 慢性痒疹 chronic prurigo

★

同義語・分類

慢性痒疹は、さらに多形慢性痒疹 (prurigo chronica multiformis) と結節性痒疹 (prurigo nodularis) に分類される。前者は比較的小さな丘疹と苔癬化局面を形成する傾向にあり、後者は孤立性に硬い 5 mm ～ 2 cm 大までの結節が散在する。

症状

多形慢性痒疹は高齢者において、側腹部や腰殿部に好発する (図 8.9)。充実性の赤褐色の痒疹丘疹が多発し、一部は拡大して褐色の苔癬化局面を形成する。激しい搔痒のために掻破されて滲出液や痂皮などの二次性変化が加わる。再発や寛解を繰り返し、年余にわたりきわめて慢性に経過する。

結節性痒疹は青年期以降の女性に好発する (図 8.7)。虫刺症様の丘疹が四肢に出現し、これが掻破されてびらんや痂皮を形成し、次第に暗褐色の硬い結節へと変化する。個々の皮疹は孤立性であり、融合して局面を形成することはない。年余にわたって存続する。

治療

ステロイド外用薬の単純塗布あるいは ODT を行う。亜鉛華軟膏シートの重層貼布も有効である。抗ヒスタミン薬の内服を行う。全身に病変が存在する場合は光線療法も行われる。重症例に対してはステロイドやシクロスポリンの内服を短期間行う。

妊娠時にみられる皮膚疾患

MEMO

こともある。難治性の結節性痒疹に対してはステロイド局注や凍結療法も行われる。

3. 妊娠性痒疹

prurigo of pregnancy, prurigo gestationis

妊娠初期(3～4か月)に四肢伸側および体幹に生じる痒疹で、出産後に軽快する。多くは2回目以降の妊娠で生じ、妊娠ごとに発症する傾向にある。多形妊娠疹(次項)との異同が問題となっているが、妊娠性痒疹は妊娠初期に、多形妊娠疹は妊娠後期に生じる。

4. 多形妊娠疹

polymorphic eruption of pregnancy ; PEP

同義語 : pruritic urticarial papules and plaques of pregnancy ; PUPPP

初回妊娠でとくに双胎の場合にみられやすいとされる。妊娠後期に強い痒疹を伴う小丘疹・紅斑が妊娠線部位に出現し、次第に体幹・四肢に拡大するが臍は侵されない(図 8.10)。一般的に出産後数日以内に消退する。妊娠性痒疹(前項)の遅発型と解されることもある。

5. 色素性痒疹(長島)

prurigo pigmentosa

同義語 : Nagashima's disease

痒疹の強い蕁麻疹様紅斑として出現し、痒疹様の紅色丘疹を反復して治癒後に粗大な網目状の色素沈着を残す(図 8.11)。思春期女子の背部や項部、上胸部に好発する原因不明の疾患であるが、急激なダイエットが契機になる場合がある。ミノサイクリン、DDS が有効。



図 8.10 多形妊娠疹 (polymorphic eruption of pregnancy)

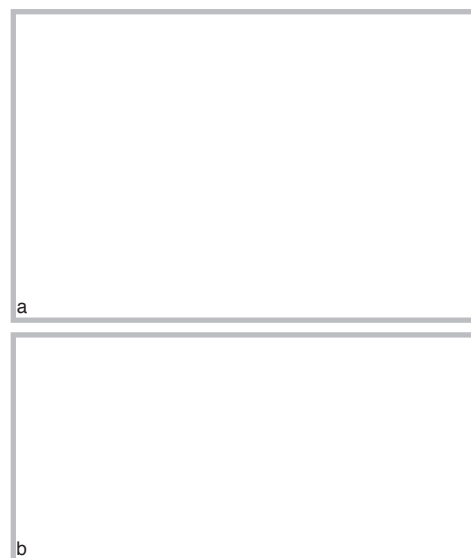


図 8.11 色素性痒疹 (prurigo pigmentosa)
a : 20 歳代女性、項部。新鮮な紅色皮疹と陳旧性の網目状の色素沈着の混在が著明。b : 網目状の色素沈着部の中央部に紅色の新鮮な皮疹の再燃(矢印)が認められる。

皮膚搔痒症 そうよう pruritus cutaneus

Essence

- 明らかな皮疹がないにもかかわらず、強い痒疹を呈する。
- ドライスキンを伴うことが多い。
- 掻破によって二次的に皮疹や苔癬化、色素沈着などを生じる。